



Profile
◆よしおか すずむ
1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフシヨアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガイインストラクター。

状況に合わせたジグ選びとアクションがハマればちゃんと釣れる！

◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします！

うん今日は釣れるー！

クラッチを切つてフールした瞬間に食ってきたよ

▲1流し目から100センチオーバーのタチウオが船中5本上がった

▶1投目で当日最大の134センチを釣り上げて大満足

こないない日があつてもいいのかねえ



▲最初の釣り場は猿島沖の水深50メートル前後
▶126センチのドラゴン級をキャッチ



★ヒット直後、細かく頭を振るような引きを見せ、大きいかも……と思う間もなく重量感がのしかかってきた

フールスピードとリアクションなり……



▲タチウオを釣り上げたらリーダーに傷が付いていないかチェック
▶ジグ形状によるアクションの違いが分かる男・ヨッシー。サイズアップを目指してジグを選ぶ



◀▲取り込みはリーダーをつかんで抜き上げる。集中して安全に取り込もう



◀後半の釣り場は走水沖の水深60~70メートル前後

★ジグの形状と誘いが合うとこのとおり。ヒットパターンを探すのがタチウオジギングのだいご味

#吉岡進の新世代沖釣り紀行vol.20

ツリガチ!

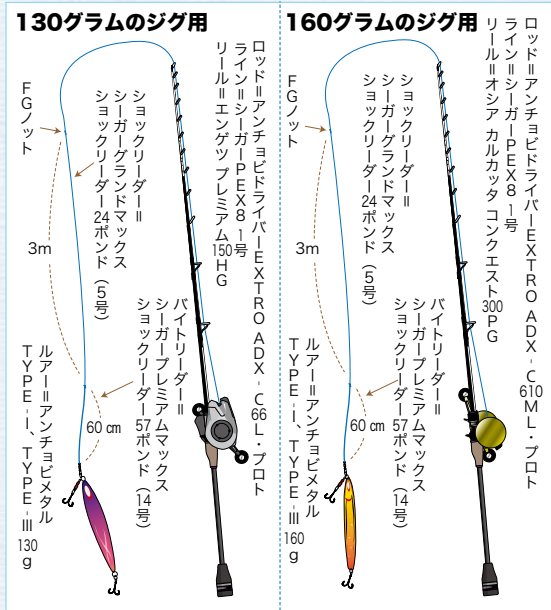
東京湾の
タチウオジギング

撮影/文◎本誌編集部



▲銀色に輝くタチウオが海面に浮上

タチウオジギングタックル



▲ジグがあまり飛び跳ねないように、できるだけしなやかなタチウオ専用ジギングロッドを選びたい

▲ジャッカルアンチヨビメタルはタイプによって動きがかなり異なる。当日は素早く沈むTYPE-Iと波動を弱めたTYPE-IIIが活躍



▲当日同船したビギナー二人はヨッシーのアドバイスどおりに釣りをしてみ事タチウオを釣り上げた



▲タングステン製ジグも活躍した



▼釣友とあれこれ工夫しながら良型のダブルヒット

タチウオジギングの釣り方イメージ

●巻き上げは竿先を下げて細かくシャクリ、ジグを跳ね上げさせないのがコツ。慣れないうちはタダ巻きでもOK。指示ダナの上限付近にいる魚がジグを見つけて追ってくるので、指示ダナの上限からさらに10メートル上まで誘う。アタラなければジグを再着底させるが、フォールでもタチウオが食ってくるのでサミングしてアタリに備えよう。

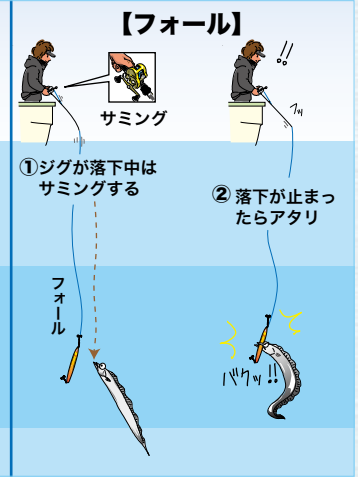
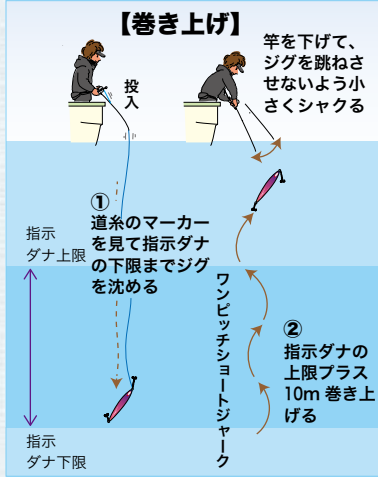


▼フォール時はサミングするとアタリが取りやすい

▲体力的にシンドくないタチウオジギングは女性にも人気



▲当日のアベレージは100センチ級と良型ぞろい



▲なんとか釣ってもらおうとヨッシーがレクチャーすると……

▼指幅7本級、127センチを釣り上げて大喜びの本橋愛子さん



巻きに反応した個体がジグを追い、フォールの瞬間にリアクションで食ってくるんだと思う

▲速め、遅めとワンピッチジャークに変化を付けて攻略していく

★ドスンという重量感とともにアンチヨビドライバI・フロトが大きく曲がる

#船宿インフォメーション

東京湾奥 長浦 **こなや丸**
☎0438-62-2707
(詳細は巻末の情報欄参照)
●料金=タチウオジギング乗合一人9500円(氷付き)
●備考=予約乗合、6時出船



▲大型船で快適にタチウオジギングが楽しめる



▲最適なジグのサイズや誘い方などの的確なアドバイスでタチウオを釣らせてくれる進藤通孝船長

やがてアタリが遠のくこと、走水沖の水深60〜70メートル前後へ移動。到着するとすでにタチウオ船団が形成されており、銀色に輝く刃のような魚体を取り込まれているのが見える。

底から10メートルの指示ダナで再開。潮が動き始めるとタチウオの活性が高まり、100センチ級を中心に120センチ級が顔を見せる。ヨッシーは大型の実績が高い、波動を弱めたアンチヨビメタルTYPE-IIIをセット。ジグが海中であまり飛び跳ねないように誘う。そして小さなアタリに合わせるとフッキング、ロッドが大きく曲がった。

今回は、フロトのタチウオロッドという新たな武器を引っ提げて東京湾のタチウオに挑んだヨッシー。詳しくは62ページから始まる本編にて！